週刊
勤勞タイムス

毎週日曜日發行
定價　月二十五円　一ヶ年二百五十円
廣告　一行五十円　場所指定二十圓增
福島縣平市南町六七　印刷所　昭和印刷所
福島縣平市大町八番地　編輯發行印刷人　木村安次

平市五丁目
㋑ 釜屋商店
會計　諸橋元三郎
電話九番九九番九九九番

植田勿來
―自給製塩組合の不正暴露さる

【植田支局發】植田組合の一部舊幹部間の不正行爲は已に白日下に晒されてゐる、今春組合の總意で組合長に豊田善三郎氏、專務に鈴木勇を推し一面町議豊田豊氏を調査委員長とする委員會を設けて不正事實の糾明に當つてゐたが、前專務丹野氏前專務田子等の杜漏極まる運營經理の方法は算式をなさず幾度となく總會を開き釋明を求めたが、因より全々經理的才能なき兩氏の辨明する能はず常に糊塗的に責を免かれんとして更らに恥を知らず約二十萬の公金を私有して已れの事業資金に當て組合簿冊の不整理は彼等の故意による計畫的の行爲とし見る事が出來る。茲に現專務鈴木勇氏は弱い者を搾めて飽食する彼等の頭上に鐵槌を加ふべく檢察廳の裁斷を抑く事になつたとの事だ

勿來組合長赤津庄兵工氏の組合無視獨斷專横の行爲は嘗つて君か縣議であり舊家であつた戰前の封建的觀念の遺物を踏襲し樣とするボス頭の持主だからであるが巨萬の富を有しながら飽食あくなく製塩組合長の地位を利用して、弱き組合員を瞞着して私腹を肥さんとした、否肥やした事實が暴露した、昭和二十二年度の組合諸經費は二十五萬六千七百余圓を要したと組合員に報告したが、調査員の簿冊檢閲に當り山縣專務は十六萬五千四百余圓が本當たと言つたとの尚本格的に調査中の樣だが事實は十二三萬位だろうとの話だ、之れも亦近日中に其の筋の御手數を煩す事になるたろうがいづれにせよ民主自治体を破壞する之等「チョンマゲボス」は速に社會的に葬らなければない。

委勞地
縣勞反對聲明か
勞資代表委囑決定で

地勞委改選問題をめぐり勞働者側委員問題で紛叫まさに縣勞委分裂の危機を叫ばれ前途多難を豫想され注目中の處去る四日一先づ勞資十名それぞれ石原知事より委員委囑狀を手交され此處三月以來より四ヶ月半もみに柔だ難問題も解決の曙光を見られた感を呈したが俄然縣勞は今次地勞委の委囑方法は明らかに特權官僚的天下り職權委囑によるものとし近く常任評議會を開き斷呼反對聲明を出す事となり、その成り行きは一段と注目されるに至つた、去る二日縣勞會議は郡山市に評議會を開催當面の重要課題である地勞委選出問題を協議その後の客觀狀態から縣勞の「勞働者代表は飽く迄縣下の全勞働者の推薦決定による」と云ふ基本方針を修正すべきだとする白河地勞電産の一部、國鐵郡山工機部の修正派と飽く迄基本線を通し縣勞からは委員を推薦しないとする、正統派との間に激裂な論爭が展開され採決の結果四十九對三十二で飽く迄基本方針に進む事を確認、修正派郡山工機部代表等は席をけつて退場し議場は一時混乱を呈し先の福島日本紡脱退に次で再度の分裂を豫想されたが三日問題の白河地區勞會議々長鈴木富美雄氏をかこみ石原知事、鬼丸勞働部長、阿部勞働課長が深更迄交捗の結果同氏の出馬が確約され遂に四日こゝに勞資十名の委囑を見るに至つたものだが鈴木富美雄氏は先に推薦十五名の候補以外は推薦しないと云ふ縣勞の態度で問題になつて居た關係で今回は日勞會議からの推薦と云ふ事で落着、縣勞五總同盟三中立組合二計十名中五名が不適當とされ結局本格的委囑となつたものは總同盟二、縣勞中立、白勞各一となつたものである。

◇勞働者側代表
川島芳夫（昭和電工未加入組合推薦）田畑金光（炭勞總同盟推薦）熊谷龜壽（敎組縣勞會議推薦）佐藤晋六（日東紡前委員總同盟推薦）鈴木富美雄（國鐵白河地區勞推薦）

◇使用者側代談
中村一雄（東北ドック福島工場長）草野四郎（田邊製作所常務）阿部恒雄（日東紡郡山第一工場長）下田與吉（前委員福島電鐵專務）鈴木善九郎（前委員會津合同貨物社長）

申告用紙は
簡單に解りやすいものを作製せよ!!

二十三年度所得稅の申告は七月三十一日一ぱい迄に行なはれた、申告用紙には申告方法の説明書がついてきたが中々ピンとこなく書込む事も出來ずうろたへていた人々が多かつた。

平稅務署では各町内別に一戸一人づゝの人員を集め二三日此の申告方法の説明を行なつた。

それでさへ三十一日最後日申告者でごつた返しの困難ぶりの中でまだ説明を受けている者が多くあつた。

政府はもつと簡單に誰にでも解りやすく、人の中をわずらわせず申告の出來るような申告用紙を作製出來ないものであらうか？ういとインフレの昂とうされる世に誰一人として暇な人間はいないであらう、此の申告のため一日も二日もついやした者も中にはあるのである。又稅務署員も多忙の折に二日も三日もむだに送ることなく濟むのである。

二重、三重の手數をはぶくため思考してもつと簡單にわかりやすい申用紙の作製に當ることを望む（池浦）

衣料品登錄
新衣料切符も交付

平市では衣料品登錄を十日午前八時より四時迄左記場所に於て執行することに決定、尚ほ當日は飯米並に綜合通帳を持參して投票用紙を印刷されて居る新衣料切符の交付を受けることになつてゐる。

平署大會議室―長橋、古研町、田町、一、二、三丁目、材木町、鍛冶町、南町、久保町才槌小路、八幡小路、十五丁目

第三小學校―四、五丁目、新川町、鎌田町、立町、堤の内白銀、大町、月見町、鐵道官舍、禰宜町、正月町

第二小學校―胡摩澤、仲町舊城跡、北目、中塩、四ッ波幕の内

第四小學校―上中下平窪

二十日分は米、麥
本月の主食配給

食糧配給公團平支部では八月中の主食配給について福島支部と連結の結果左記の如く決定

米十五日分、麥五日分、砂糖五日分、脱脂大豆二日分馬鈴薯二日分

うちモチ米三日、分馬鈴薯五日分更にところにより干アンズと干ウドン（市内）を各一日分配給したところもあるが、馬鈴薯と干アンズは來月分の前渡分になる見込で今月とは關係がなくなる豫定、今月分のモチ米と麥で計二十日分は確保するとある。

炭礦現地調査

東部石復では各炭礦の要望を聽取のため九日より十三日の五日間原健幹事長外七名は秋田縣内炭礦を皮切りに現地調査にのり出すことになつた。

常駐炭鑛調査團設置

現下石炭增産を目的とする常駐炭礦調査團を九洲北海道にならひ近く常盤炭田にも設置される旨この程平石炭局より發表を見た、調査團は第八軍の管轄下におかれ福島軍政部には近く石炭專任駐在團長が派遣されるがその間軍政部のキング少佐が代行するものと見られる。

尚ほ日本側調査團には左の決定を見た。

團長木下平石炭局管理部長團員小島生産部長、伊佐勤勞部長、橋本厚生部長、須藤資材課長、根本經理課長以上（平石炭局）仙臺水戸管理部員

賃金案安結協約改訂貫徹斗爭へ

【四倉支局發】既報去る七月十九日地勞委による調停決裂注目中の電工四倉勞組員二十九名は三十日早朝を期して斷呼スト宣言の態度を決定したが、形勢不利と見た會社側はいち早く妥協を申入れ組合側も之を諒解一先づ交渉に切り替へ折捗の結果會社提案の二千一百〇八圓ベース、五、六、七月分の差額給一千六百圓を加算した二千九百七十圓案を入れ、附勞條件として八月以降より組合側要求の基本給三千圓支給を確約させ協約改訂は引き續き團体交渉による事とし、一應賃金案の妥結を見た、大平組合長の見解を聞く「賃金案は一應會社案を七月分迄含んだが協約に關する限り飽く迄原案貫徹迄斗爭する」

衣料品の登錄には
八月十日登錄日もまじかです
衣料品の登錄には必ず皆樣の御滿足にゆく左記の商店へ何卒御投票をお願ひ致します
中央通り　電話四六番　マザゴヤ洋品店
四丁目　電話四〇一番　ウロコヤ商店
銀座通り　電話一四番　ハシモトヤ糸店

キレン前勞働課長 聲明『星條旗』の報導

三日付のアメリカ進駐軍機關紙「星條旗」の傳へるところによれば辭職した總司令部勞働課長ジームズ"S"キレン氏は五百語からなる聲明書を發表、その中で「罷業權の禁止に反對するものではないが二百五十万官業勞働者の團体交渉權の否認には反對だ」と述べこの否認は組織勞働者の約四割の人々の民主的な手續に對する信念を强化させるゆえではないと指摘した、なほ二日付でマニラのアメリカ系新聞「マニラブレチン」が一日の社説で「マ元師自身の幕僚二名が日本官業勞働者に對する政策に反對してやめたということは全く理解に苦しむアメリカの共産主義者が總司令部にもぐりこんだという始終聞かされてゐる報導は本當かも知れぬ」と述べたと傳へられる

全勞連産別共斗へ 全官公絶對支持を聲明

政府のポ政令公布に對し國鐵全遞などの非常時宣言に端を發した全勞働陣營の反擊態勢は其の後急激に强化され、全遞、國鐵の共同斗爭に次で全勞連産別など民間勞働も之に同調特に硫勞連全電工その他の民間産業に公務員法反對、全官公絶對支持、最底賃金要求等の具体的斗爭が展開され注目される、この中に農民市民の要求も具体化統一され擴範なる。民主民族戰線は日本の完全獨立と民主々義を防衛する組織として已にその一歩前進を示しその主軸となる全國勞働戰線の統一は急速に擴大されてゐる

民間勞組の動行

全電工

「去る二日各支部に對し昨年二・一スト以後の第二號指令を發した

「最底賃金制への斗爭をストライキをもふくむ、あらゆる手段を以てたゞちに開始せよ、この斗爭を他の金屬ろう働者と共に政府獨占金融資本などの權力と爭ひ拔く全人民的地域斗爭にまで發展させ、日本民族の自由と平和と獨立を確保せよ

硫勞連

硫ろう連第二次共斗蹶起大會は七月二十九日から三日間東京で開かれる、全國代表百七名は斗爭宣言を發し全官公との共斗、暴壓反對斗爭、生活權確立共斗を決議同ろう連は二十三組合四万四千名の加盟して居り、産別中立總同盟それぞれ同數をしめてゐるが同大會での暴壓反對聲明では

「ろう働者爭議に對する相次ぐ彈壓、福井地方の公安條例公布を始め日本共産黨德田球一書記長に對する白急テロ行爲等に對し政府に嚴重抗議し斷呼斗爭にたつろう働關係法規改惡反對決議に

「公務員法その他一切のろう働法規改惡に對し全官ろう組と共に斗ふ事を誓ふ」

尙ほ總同盟本部は全ろう連を脱退したが、硫ろう連は滿場一致全ろう連强化の方針を確認した。

今石炭

全石炭ろう組は全國的に保安確保斗爭にたつて居り九洲地方では日炭高松、三菱勝田等白色テロ抗議と保安要求その他でスト斗爭を展開地方に分散して居る中斗委員は宣傳工作隊を編成地域斗爭の準備に邁進して居る。

投稿

未亡人惡夢からさめよ

宮脇壽美子

昔から夫を國に捧げて來た未亡人として生きた方々の美談は、そうとうに世の中に廣められて來ましたが今の世の中の未亡人の殆んどが惡夢に走り世を亂してゐると云ふことは、日本女性の悲しむべきことであります。

何時の新聞にも郡山地方各方面の未亡人の活躍ぶりは本當に美しい心掛であります、私は只々感謝するばかりです、それでこそ日本婦人であると思います、永久に大和の國の婦人の心を忘れずにゐてほしいと所願するばかりです、此の世に殘つた人々は國のため民のために身を捧げた父、兄、弟可愛い子供を捧げた人々に心の中では感謝してゐるに違ひないと思ひます。ですから未亡人として居られる方々は、どうぞ地下にゐる靈魂に强く心をおいて後つゞく子供達を良き青年に良き女性に導き下さることを切にお願ひ致します。

●●●●●

一つ美談として

平市舊城跡に居住される父なき家庭で小供五人を持つ高橋ナホ子さんは、雨の日も風の日も毎日一生懸命に働いてゐて、それは人々に親切で又やさしい心の母として働きおいて歸宅後は、夜おそく迄子供の教育に一心になつている母性愛、本當に此の方は世間の噂も良く子供もなか／＼母想ひで家の中は何時見てもきちんと整頓されてゐます。此の人の様な方こそ手本として行くべきではないでしょうか。

これからの日本は若い青年男女が肩を並べて建設に前進し日本の厚生を計からなければなりません

＋×＋×＋×＋×

平の映畫

十日より上映
大映作品
エノケンの
「びつくりしやつくり時代」
一見笑ひがとまらぬ三日間!!
この世の中としやつくりはびつくりしなけりや直らない
主演 榎本健一 笠置しづ子 相馬千惠子
世界館

十日より上映
「流轉」
男いのちを三筋の糸にかけて戀もすて名もすてゝ流轉の旅を行く杵屋新二郎の三味線道中
主演 坂東好太郎 坂東橘之助 森靜子
平館

十日より上映
「センチメンタルジヤニー」
ウォルター、ラング監督
久々のジョン、ペイン モーリン、オハラ主演
比類なき夫婦愛の極致！
聚樂館

九日より上映
フランス映畫
奏ひる戀の宿命
フランス文壇の逸才ジャン、コクトン脚本
「悲戀」
主演 マドレエヌ、ソロオニユ ジャン、マレエ ジャン、ミユフニア

お知らせ
本週より新型映寫機がそなへ付になりました
平東寶

開店お知らせ
マルヨ自轉車店
修繕事實部
世界館前 マルヨ洋裁店

暑中御伺

小名濱町 日本水素工業株式會社 勞働組合
小名濱町 福島殖産株式會社
小名濱町 日星製作所
小名濱町 有限會社 小名濱造船所
小名濱漁業會
小名濱町 高橋漁業出張所
小名濱町 小名濱マーケット一同
小名濱旅館組合

小名濱揚操網組合
小名濱町製塩協同組合
江名町漁業會
江名造船所 坂本菊治
ボデー修理 馬車、荷車 鈴木製車店 平市新川町二五
平市十五丁目十二 近藤鑛業所 電話七〇九
平市才槌小路一 堀江工業株式會社 取締役社長 鈴木唯治
平市仲間町五一 高澤カメラ店
平市鐵工工業會 會長 佐藤源吉
平市字三倉八 片倉工業株式會社 平製絲所 電話八一番 八二番
平市公安委員會 山崎與三郎
石城地方事務所
石城地方町村會會長 渡邊國之助
平市三丁目 冨士興業株式會社
磐城事務所
平市鎌田町 草野昇二郎
平市中央通 松本商會 電一九六

神谷工業原料株式會社 社長 神谷兼次郎 平市月見町五六 電話平 六六五番 六五六番
平市鍛冶町 平製パン有限會社 電話二十一番
平市搔槌小路十四 福島縣平地區木材林産組合 組合長 佐藤三平
福島縣坑木林産組合 組合長 佐藤三平 平市搔槌小路十四
四倉セメント株式會社
石城郡植田町金畑 有限會社 平和商會 代表取締役 合津完之
植田町本町 吉田清 電話二〇二番
東新炭礦株式會社
石城郡植田町後宿 下瀧炭礦々業所 電植田一四七
石城郡錦町中田 渡邊商店 電植田二一四
常磐線植田驛錦町 錦座經營 鈴木興行社 鈴木富藏 電植田二二五
平市仲町 大和田印刷所 大和田與兵衛